

物流床の原点

モノリスコーポレーション株式会社 / GM 亀井昭利



日本床施工技術研究
協議会 会員

時代の変化とともに物流倉庫床の考え方も大きく変わってきた。

一般的に倉庫は物を保管するための場所であったが、インフラの整備と輸送システムの構築により、新しい形の物流倉庫がどんどん誕生してきた。

作業効率を高めるレイアウト、画期的なマテハン機器の登場など、床に対する要求品質も今まで以上に高まってきている。

AIやロボットの導入で更なる床のレベル精度が要求されてくる。

最軽量型騎乗式トロウェルの円盤を使用

米国やヨーロッパでは一般的な騎乗式トロウェル(騎乗式機械仕上げ機)。日本では最終仕上げとして使用していたが、重量の問題やコンクリートの剥離の原因になるということから使用を制限されていた。

私たちは、騎乗式トロウェルを小型軽量化させ最終仕上げで使用するのではなく、レベル精度を最終調整できるタイミング(円盤掛け)で使用することで、レベル精度の高い床の提供を実現した。

made in japan の特殊円盤

大手の車両を製造しているメーカーに円盤の材



質・厚み・形状を研究して頂き、不陸矯正できるベストなタイミングでレベル精度を調整できた。

最終仕上げはプラスチック縷

不陸のない床は仕上げがきちんと当たる。縷が満遍なく当たるので仕上げは均一化できる。そして、過剰に光沢を出し過ぎないようにプラスチック縷を使用し、焼付かせない床に仕上げることで表面剥離を抑制した。

鏡面仕上げにこだわる訳

鏡面仕上げの特徴は表面硬度が高いこと、粉塵が出にくいことである。

一般的な金縷仕上げと比較すると表面の透水量が断然少ない。

表面強化材は化学反応により表面をガラス化して強化する。また、下地が鏡面仕上げであることで光沢も増し、美観も保たれる。

金縷仕上げでは表面が柔らかすぎて強化材の

効果も半減し、美観も失う。

表面強化材の下地は、鏡面仕上げでなければ本来の意味がない。

おわりに

生コンクリート(柔らかい)を、一日で1枚岩のような床に創りあげる(モノリシック工法)技術は大変画期的なものである。美観に優れ、粉塵がなく、耐久性が高い。そして、レベル精度が高い床こそが物流倉庫床に求められていることだと確信している。

最新の機械の導入と、職人の技術の融合なくして物流倉庫床の前進はない。

問い合わせ先

モノリスコーポレーション株式会社

TEL.042-851-4077

<http://www.monolith-c.co.jp>

